

ヨーク大学日本語科二年会話・読解教材

第28課

「試験」

交換留学生の清水まゆみさんは、秋学期ははじめての外国の大学での勉強だったので、講義もあまりよく聞き取れず、教科書を読むのにもだいぶ時間がかかり、小論文も英語では書きにくく、試験の勉強もどうしてよいか分からず、とても困りました。一番問題なのは、やはり英語力で、カナダ人の学生だったら、一日で読める本が、三日かけても読めないのです。もっと大変なのは書く方で、小論文なら友達に見てもらえるから、まだいいのですが、論文形式のテストは時間が足りなくてお手上げでした。結局社会学のコースを一つ落としました。英語を含めたほかの三つのコースの成績はまあまあでしたが、心理学の小論文は先生に提出期限を延期してもらって、冬休みに書いて、先日出したばかりです。今学期は、三つしかコースを取っていませんが、「読書週間」が終わるとすぐ試験があることになっているので、今から戦々恐々です。それで、今日は、日系カナダ人のアドバイザーの正木教授に相談に行くことにしました。

「会話」

清水：先生、今日はお忙しいところをどうもすみません。

正木：久しぶりだね。勉強のことで悩んでいるんだって。

清水：はい、秋学期は、コースを一つ落としましたし、成績もあまりよくなかったので、どういう風に勉強したらいいか教えていただけないかと思って。

正木：そうですか。聞き取りの方はだいぶなれたでしょう。

清水：はい、はじめのころと比べたら、かなり分かるようにはなったのですが、語彙の不足を痛感しています。

正木：たいていの留学生に共通した問題ですね。これは、すぐによくなるというものではないんですが、それぞれの分野に出てくる専門用語を書き出して、意味と使い方をきちっと頭に入れる努力をしたらいいと思います。

清水：読解の方も、読んでも後で何が書いてあったか覚えていないのですが。

正木：それもよくある問題で、読む時に本当に内容を理解していないだけでなく、自分の言葉で内容を記憶していないために起きる問題です。

清水：どうしたらいいのでしょうか。

正木：私は、大切なところをハイライターで記して、読み終わってから、そこだけ拾い読みして、内容を覚えておくことにしています。これで内容がだいぶ頭に残ると思います。これは試験のために復習をする時にも役に立ちますよ。

清水：ぜひやってみます。最後に、討論なんですけど、他の人が話している時に、どこで話し出したらいいのか分からなくて困るんですが。

正木：それは、僕でも困る場合があるんですが、要するに、英語と日本語の会話のストラテジーの違いからくるものだと思います。英語は一般的に「対話的」、日本語は「独話的」と言えます。どういう意味かというと、日本人同士の会話を聞いていると、たいてい中心人物が、一人で話していて、あとはみんな聞き手に回っています。英語の場合は、キャッチ・ボールのようにある人が話したら、次の人がそれを受け止めて話すというように、会話が進んでいきます。ですから、どこで会話に割り込んで、自分の会話を進めるかという規則を心得ているわけです。日本人が会話に弱いというのもこんなところに原因があるのです。

清水：なるほど、おっしゃる通りですね。時々何とか相手の話に割り込もうとするのですが、相手にされないのです。

正木：そうですね。話し手が自分の場を主張しているのです。

清水：今日は勉強になるお話を本当にありがとうございました。少し気分が楽になりました。

正木：そうですか。それはよかったです。問題があったら、またいらっしゃい。

[語彙]

試験	しけん	‘exam/test’
留学生	りゅうがくせい	‘exchange student’
秋学期	あきがつき	‘fall term’
講義	こうぎ	‘lecture’
聞き取る	ききとる	‘listening comprehension’
教科書	きょうかしょ	‘textbook’
小論文	しょうろんぶん	‘essay’
困る	こまる	‘have difficulties’
問題	もんだい	‘problem, question’
英語力	えいごりょく	‘English competence’
大変	たいへん	‘have a hard time’
友達	ともだち	‘friend’
論文形式	ろんぶんけいしき	‘essay style’
足りる	たりる	‘enough’
お手上げ	おてあげ	‘give up’
結局	けっきよく	‘in the end’
社会学	しゃかいがく	‘sociology’
落とす	おとす	‘drop’
含める	ふくめる	‘include’
成績	せいせき	‘results’
心理学	しんりがく	‘psychology’
提出期限	ていしゅつきげん	‘due date’

延期	えんき	‘postpone’
取る	とる	‘take’
読書週間	どくしょしゅうかん	‘reading week’
戦々恐々	せんせんきょうきょう	‘in great fear’
日系	につけい	‘of Japanese origin’
正木	まさき	
教授	きょうじゆ	‘professor’
相談	そうだん	‘consult’
忙しい	いそがしい	‘busy’
久しぶり	ひさしぶり	‘a while’
悩む	なやむ	‘worry’
風	ふう	‘manner’
教える	おしえる	‘teach’
比べる	くらべる	‘compare’
語彙	ごい	‘vocabulary’
不足	ふそく	‘lack’
痛感	つうかん	‘feel acutely’
共通	きょうつう	‘common’
分野	ぶんや	‘field’
専門用語	せんもんようご	‘jargon’
意味	いみ	‘meaning’
使い方	つかいかた	‘how to use’
頭	あたま	‘head’
努力	どりよく	‘effort’

読解	どっかい	‘reading comprehension’
覚える	おぼえる	‘remember, memorize, learn’
内容	ないよう	‘content’
理解	りかい	‘understand’
自分	じぶん	‘self’
言葉	ことば	‘language, words’
記憶	きおく	‘memory’
起きる	おきる	‘happen’
大切	たいせつ	‘important’
記す	しるす	‘mark’
拾い読み	ひろいよみ	‘skim through’
残る	のこる	‘remain’
復習	ふくしゅう	‘review’
役に立つ	やくにたつ	‘be useful’
最後	さいご	‘last’
討論	とうろん	‘discussion, debate’
他	ほか	‘other’
場合	ばあい	‘case’
要するに	ようするに	‘in short’
違い	ちがい	‘difference’
一般的	いっぱんてき	‘generally’
対話的	たいわてき	‘dialogue like’
独話的	どくわてき	‘monologue like’
同士	どうし	‘each other’

中心人物	ちゅうしんじんぶつ	‘central figure’
回る	まわる	‘turn’
受け止める	うけとめる	‘catch’
進む	すすむ	‘proceed’
割り込む	わりこむ	‘cut in’
規則	きそく	‘rule’
心得る	こころえる	‘understand’
弱い	よわい	‘weak’
原因	げんいん	‘cause’
通り	とおり	‘right, as’
相手	あいて	‘the other party’
主張	しゅちょう	‘claim’
本当	ほんとう	‘true’
気分	きぶん	‘feeling’
楽	らく	‘easy’

© Norio Ota 2000